

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

●A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎はどんな病気？

- ✓ A群溶血性レンサ球菌(一般的には溶連菌と呼ばれている)による感染症です。
- ✓ 患者は学童期(5~15歳)の小児に多く見られ、冬季および春から夏にかけてと、2つの流行期があります。
- ✓ 主に小児の間では急性咽頭炎として発生する疾患で、感染性は初期のころが最も高く、徐々に弱まります。
- ✓ 感染症法では定点把握対象の5類感染症に分類され、一部の小児科医療機関が届出基準に基づいて診断した場合、保健所に届出がされることになっています。

●どんな症状があるの？

- ✓ 潜伏期間は2~5日程度で、突然の発熱、全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしば嘔吐を伴います。
- ✓ 舌がいちごの粒のようにみえる「莓舌」がみられることもあります。
- ✓ 「猩紅熱(しょうこうねつ)」の場合、発熱の12~24時間後に全身に赤い発疹が広がります。
- ✓ 合併症として肺炎・髄膜炎・リウマチ熱・糸球体腎炎などをおこすことがあります。

●どうやって感染するの？

- ✓ 感染経路は、飛沫感染(患者の唾液や鼻汁がくしゃみや咳で飛び散り、吸い込むことで感染)、接触感染(患者の手や触ったものを介して、口に入れたり鼻を触ったりすることで感染)などです。
- ✓ 特に接触が濃厚な家族間、園や学校で拡がることが多いです。

●治療方法と予防策は？

- ✓ 抗生物質が有効であり、処方された分は合併症予防のためにも自己判断で中止せず必ず飲み切るようにしましょう。また咽頭痛や発熱に対しては解熱鎮痛剤が併用されます。
- ✓ 予防接種はありません。
そのため患者との濃厚接触をさけ、うがい・手洗い・マスクを用いた咳エチケットなどが大切です。